

1. 本園の教育目標 <こころとからだの強い子どもを育てる>

・明るく健康でたくましい子ども・友だちと仲よく遊べる子ども・善悪の判断が理解できる子ども・情操豊かに思いやりのある子ども・目標に向かって頑張る子ども

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						評価結果に関する 教員などの主な意見	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価
① 子どもの 思いを受け 止める 保育の見直し	一人一人に 寄り添う 保育を行う	4	ゆとりのある保育を行い、子どもと一緒に遊び関わる。	3.5	4	保育者が一人一人の個性をより理解し接するようになった。	3.2	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数の少ないクラスということもあり、一人ひとりの個性を理解しゆっくり関わる事ができた。</li> <li>・行事の前はゆとりのある保育ができていないと感じる。</li> <li>・行事の日程について検討が必要。</li> <li>・自分から積極的に気持ちを伝える子どもとそうでない子どもを把握し、状況や子どもの様子を見ながら声掛けをすることができた。</li> <li>・遊びの時間に怪我等がないよう全体を見守ることに集中しがちな為、時には教師が子どもとじっくりと遊ぶ役割になることも大切だと感じる。</li> </ul>
		3	日常的に子どもとコミュニケーションを取り、一人一人の性格や個性を記録する。		3	子どもが伸び伸びと好きな遊びを楽しむ姿が見られるようになった。			
		2	子ども一人一人に合った援助・コミュニケーションを取り、信頼関係を築く。		2	子どもが困ったことを保育者に伝えるようになった。			
		1	子ども一人一人と目を合わせて会話をし、思いを受け止め尊重する。		1	子どもが安心感を持ち、保育者に進んで会話するようになった。			
	子どもの 主体性を 育む 保育を行う	4	保育者が全部決めるのではなく、子ども達のやりたい事や意見を取り入れ一緒に作り上げる。	3.0	4	保育者だけでなく子どもも達成感を味わえるようになった。	2.8	B	
		3	子どもの気持ちや思いを聞き、保育に取り入れる。		3	子どもの気持ちに寄り添った保育が出来るようになった。			
		2	子どもの様子を見ながら、したい遊びを選べるような環境を作る。		2	子どもの興味の幅が広がり、積極的に遊びに参加するようになった。			
		1	保育や遊びの中で子どもが自分で考え行動できるような声掛けや援助を行う。		1	自分のしたい事や考えを言えるようになった。			
② 働き方 改革	園業務の 効率化と 就	4	職員で意見を出し合い、デジタル化や簡略化で業務の軽減を図る。	3.0	4	デジタル化や簡略化が進み、業務が軽減した。	2.8	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席やバス利用の連絡、預かり保育の予約がデジタル化したことで業務が軽減した。</li> <li>・副担任は担任と就業時間が大きく違うため、園業務の全体の把握は難しい。</li> <li>・経験年数が浅く、業務の優先順位がわからないことがあった。</li> <li>・見通しを持って取り組んでいても、就業時間内に終わることが難しいこともある。</li> </ul>
		3	見通しを持って業務に取り組み、就業時間に終えられるようにする。		3	就業時間を意識し見通しを立てることで業務の効率が上がリ、就業時間内に終わる日が増えた。			
		2	各自が園務の内容を理解し、共通理解を図る。		2	園の業務内容を知り、園務の全体像を把握することができた。			
		1	保育計画を立て、進捗状況を確認しながら無理なく進めて行く。		1	優先順位を決めて業務を進めることができ、心に余裕をもって保育を行うことができた。			

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						評価結果に関する 教員などの主な意見	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価
② 働き 方 改 革	職 員 間 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ	1	朝礼・終礼時に報告や連絡を行い、情報を共有する。	3.7	1	園児に対する理解が深まり、責任感が強くなった。	3.2	A	・毎朝の担任の朝礼と副担任の朝礼があることで行事や園児についてなど情報共有が来ていると思う。連絡ノートがとても役に立っている。 ・担任同士、副担任同士はコミュニケーションが取れているが、同じクラスや学年の担任と副担任は勤務時間の違いがありゆっくりと話す時間をとることが難しい。 ・終礼後の時間にその日の出来事や子どもの様子、自分が困ったことなどをかきこまらずに話すことで先輩後輩に関わらず楽しく会話が出来た。 ・相談しようと思ったことを後回しにした為、自分が困る場面があった。
		1	経験年数に関わらず、上司や同僚に積極的に相談する。		1	相談しやすく働きやすい環境になった。			
		1	日常的な会話をすることで、互いを理解する。		1	互いの気持ちや立場を理解できるようになった。			
		1	他者の挨拶を待つのではなく、気持ちのいい挨拶をする。		1	自分から挨拶をすることを心掛けるようになった。			
③ 職 員 の 安 全 意 識 向 上 を 図 る	安 全 点 検 や 教 員 の 安 全 対	1	安全チェックシートを作り、月に1回遊具・用具・施設の安全点検を行い劣化等による事故を防止する。	2.1	1	安全点検が身につき、幼児の怪我が減った。	1.8	B	・何度も声を掛けているが廊下での転倒や出会い頭にぶつかる事例が多く、声掛け以外に何か防ぐ方法はないかと考えている。 ・不審者対応の研修を受けてみたい。 ・遊具や施設に危険なところはないか常に気を付けて見るようにしている。
		1	遊具や施設等の危険を見つけた場合は、直ぐに共有し防止策を取る。		1	園児が活動や遊びの決まりや約束を積極的に守るようになった。			
		1	子どもと一緒に遊び、子どもの動きをよく見て危険な所はないか安全に対する意識を高め、視野を広げる。		1	職員も意識を高めたことにより子どもが危険な状況を発見した時に、保育者に伝えるようになった。			
		1	緊急時に備え、園児と職員が適切な行動ができるよう定期的な避難訓練を行う。また、不審者対応の研修を行う。		1	避難訓練の大切さが分かり真剣に取り組むようになった。			

※ A…大変良い B…良い C…普通 D…良くない

【総合的な評価】

- ・一人ひとりに寄り添い思いを受け止め、子どもとの信頼関係を築くことはほとんどの職員が達成できていたが、ゆとりのある保育という点では達成できていないと感じる。特に行事が多い時期などは時間に追われていることがある為、行事の時期や内容を見直す必要がある。教師がゆとりを持つことによって、より子どもの思いを聞いたり気持ちを引き出すことができる。また、その思いを保育に取り入れたり環境を作っていくことで子どもの主体性を育てていきたい。
- ・働き方改革については、職員の経験年数や労働条件によって意見が異なるが、それぞれが相手の立場に立って思いやりを持って業務を遂行することが効率化や円滑なコミュニケーションに繋がると考える。
- ・安全管理体制については、今年度は活用していなかった安全チェックシートや役割の付与によって改善に務める。

**【今後取り組む課題】**

- ・ 行事や保育内容を見直し、ゆとりを持って保育できる環境を整える。
- ・ 職員の働き方が改善されていると実感できるような明確な目標設定を行う。
- ・ 緊急時に職員が自信を持って行動できるよう研修を行う。  
また遊具や設備の点検を役割分担し安全に対する職員の意識がより高まるよう工夫する。

**【学校関係者評価委員会の評価】**

- ・ 保護者が安心して子供を預けられる態勢が整っている。
- ・ 働き方改革については、明確な目標設定が必要だと考える。
- ・ 職員の自己点検・自己評価によって教育目標に挙げられている内容は適性に推進されている。
- ・ 先生の負担が増えることのないよう保護者にできるお手伝いをしたい。
- ・ 安全点検は担当者を固定しチェックシートを活用するとよい。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員会実施日

令和6年2月26日